

平成31年度（2019年度）若手研究者交流事業（Ⅱインド枠）  
申請書記入要領

## 申請書の構成

種類	様式	作成者	提出必要部数	提出方法
a.申請書	本会 HP よりダウンロードした様式(Word)で作成	申請者	正本1部 写し3部	a～cの電子データを保存したCD-R, CD-RWとともに紙媒体で提出
b.受入承諾書	様式任意	海外での受入研究者	正本1部 写し3部	
c.推薦書	様式任意（2枚以内）	指導研究者等	正本1部 写し3部	

※外国人の場合のみ、永住許可の証明書（永住許可の旨記載された住民票もしくは、永住許可証の写し）を併せて提出すること。

## 申請書の記入方法

以下に、申請書様式での番号に従い記入要領を説明します。「(英文)」と指定のされた項目以外は全て日本語で記入してください。

### 1. 申請者情報等

様式上の番号	項目	記入要領
④	小区分コード	HP掲載の「小区分コード表」を参照の上、5桁のコードを記入してください。平成30年度以前の特別研究員採用者についても、小区分コードを新たに選択してください。
②	書面審査区分	HP掲載の「小区分コード表」を参照の上、書面審査区分名を正確に記入してください。平成30年度以前の特別研究員採用者についても、書面審査区分を新たに選択してください。
③	小区分名	HP掲載の「小区分コード表」を参照の上、小区分名を正確に記入してください。平成30年度以前の特別研究員採用者についても、小区分を新たに選択してください。
①	区分	①小区分コードに応じて区分が自動的に決まる場合 HP掲載の「小区分コード表」を参照の上、「区分」を記入してください。 ②審査を希望する区分を選択する必要がある場合 HP掲載の「小区分コード表」を参照の上、希望する区分を記入してください。 (例)「ジェンダー関連(80030)」で申請する場合 →区分は人文学又は社会科学のいずれかを選択してください。 ※区分が選択可能かどうかは、審査区分表及び小区分コード表でご確認ください。
⑤	専門分野	小区分にかかわらず、自分の専門分野を漢字等によりテキストで記入してください。
⑥	研究課題名	・研究課題名は具体的な研究内容を <b>40字程度</b> （記号、数字等も全角／半角に関わらずすべて1字として数える）で簡潔に記入してください。 ・研究課題名には、副題を記入しても差し支えありません。特に共同研究課題の場合は、申請者が担当する部分を副題として記載してください。ただし、副題を含めて40字程度としてください。 ・ <b>申請書提出後、研究課題名を変更することはできません。</b>

⑦	氏名	採用者として名前を公表する際など、通常取り扱う際に使用する氏名です。旧姓や通称名等を使用することも可能です。( )で旧姓を併記することなども可能です。特に制限はありません。 <b>和文証明書発行時は、本欄に記載のとおりに記載します。</b>
	氏名 (ローマ字 表記)	ローマ字表記については希望するものを半角で記入してください。 <b>英文証明書発行時は、本欄に記載のとおりに記載します。</b> 姓は全て大文字、名は最初の一文字のみ大文字、以降は小文字で記入してください。 (証明書使用時の例：YAMADA, Taro)
⑧	性別	戸籍上の性別について、男・女いずれかを記入してください
⑨	国籍	「日本」「日本以外」のいずれかを必ずチェックしてください。 「日本以外」にチェックした場合のみ、具体的な国名をテキストで記入してください。 「日本以外」の場合には、日本に永住を許可されていることを証明する「永住許可証の写し」または「永住許可の旨記載された住民票」等を採用内定後の派遣開始手続時に提出いただきます。(在留資格が「留学」「日本人の配偶者等」の者は申請できません。)
⑩	生年月日	生年月日及び採用年度の4月1日現在の満年齢を記載してください。
⑪	大学院 博士課程 入学年月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍の博士課程の状況を記入してください。</li> <li>・複数の博士課程に在学したことがある場合や、複数の学位を取得している者は、現在在籍中の大学院博士課程に係るものを記入し、⑫「学歴」欄に、全ての在学した博士課程の状況や学位取得状況についてテキストで記入してください。</li> </ul>
⑫	学歴	学部・修士課程(博士前期課程を含む)・博士課程に係る学歴を <b>西暦で記入</b> してください。
⑬	研究・職歴 等	<p>本会特別研究員、及びそれ以外の同様のフェローシップの採用歴も含めてテキストで<b>西暦を記入</b>してください。研究生歴も本欄に記入してください。</p> <p>※特別研究員採用歴を記入する際には、下記の例に従って記入してください。 資格について当初の内定・採用の状況と、その後の資格変更の状況を全て記入してください。また、採用年度(2桁)と受付番号を末尾に記載してください。(例えば、平成22年度採用 受付番号 123 場合、末尾に「22-123」と記入)(下記の記入例を参照。)</p> <p>例1：2009年4月～2010年3月 DC1申請・採用(21-123) 2010年4月～2012年3月 DC1採用後PDに変更(21-123)</p> <p>例2：2009年4月～2011年3月 DC2内定後PDに変更(21-4567)</p> <p>例3：2011年4月～2014年3月 PD申請・採用(23-123)</p> <p>例4：2011年4月～2012年3月 PD内定後DCに変更(23-4567) 2012年4月～2014年3月 DC2採用後PDに変更(23-4567)</p>
⑭	派遣を希望する期間	14日以上6か月以内の期間で記載してください。 派遣開始日は、2019年10月1日から2020年3月31日までの間です。
⑮	派遣国	「インド」と記入してあることを確認してください。
⑯	現在の受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「科研費研究者番号」については、研究者本人または所属機関事務局に問い合わせ記入してください。</li> <li>・所属機関・部局・職名については、複数の身分を兼ねている場合は、原則として本務を記入してください(大学内の研究所等の研究者が大学院研究科の教員を兼ねている場合は、本務である当該研究所における身分を記入すること)。</li> <li>・外国人の方の場合は、「氏名」欄はローマ字で、「フリガナ」欄はカタカナで記入してください。</li> </ul>
⑰	海外における受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず受入研究者本人と連絡をとり、受入について承諾を得てください。</li> <li>・この欄で記入した内容は、採用内定時に発行する証明書に記載されますので、記入の際にはご留意ください。</li> <li>・氏名について、「FAMILY NAME」は全て大文字で、「First Name」及び「Middle Name」は最初の文字のみ大文字であとは小文字としてください。また、「Middle Name」については、アルファベットのイニシャルと省略記号「.」で表記してください。</li> </ul>

		い。 ・受入機関については、インド国内の大学、公的研究機関（科学技術分野）の中から一機関を選び、記入してください。「受入機関名」の「種別」欄にて、受入機関の該当する種別を選択してください。
⑱	推薦書作成者	推薦書を作成する者（指導研究者等）1名の氏名等を記入してください。
⑲	研究活動における主な使用言語	研究活動を遂行する上で主に使用する言語名を記入してください。複数でも構いません。
⑳	外国での研究遂行能力（語学能力の確認）	<p>・「⑲研究活動における主な使用言語」で記入した<b>全ての言語について、外国で研究活動を行うにあたり、相応の語学能力を有することを、以下に示す「客観的に判断できる指標の例」等を用いて具体的に説明してください。</b></p> <p><b>【客観的に判断できる指標の例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な使用言語の語学検定試験結果（試験名称、取得年月も記入すること。）</li> <li>・国際学会において、主な使用言語での発表経験の有無、回数</li> <li>・主な使用言語での論文執筆経験の有無、数</li> <li>・主な使用言語圏への留学経験の有無、内容</li> <li>・主な使用言語の日常的な使用頻度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室で日常的に使用している</li> <li>・主な使用言語を用いてフィールドワークを行っている</li> <li>・主な使用言語を用いて共同研究を行っている 等</li> </ul> </li> <li>・その他、客観的に相応の語学能力を有しており、外国での研究活動に支障がないことがわかる事例</li> </ul>
㉑	海外における研究・留学歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月以上海外で研究に従事した経験がある場合に記入してください。語学研修など研究以外の海外滞在は含みません。該当がない場合は「該当なし」と記入してください。3件以上ある場合は、渡航期間の長い主要なものを優先してください。</li> <li>・「訪問先」欄には国及び機関名等を記入してください。</li> <li>・「目的」欄は、渡航目的（研究遂行、会議・学会等出席等）をテキストで具体的に記入してください。</li> <li>・渡航の際に係る経費の財源（例、自費、自らが研究代表者として獲得した科研費、指導研究者が研究代表者として獲得した科研費、大学の資金、渡航先ホストの研究費等）があれば、併せて記入し、自ら獲得したものかどうかわかるように記入してください。</li> </ul>

## 2. 現在までの研究状況と研究成果

### 3. 派遣先における研究計画等

下記の点に注意のうえ、作成してください。

- ① 10ポイント以上の文字で記入してください。
- ② 「(英文)」と指定された項目以外は日本語で記入してください。
- ③ 様式中の各項目について指定されたもの以外の項目を付け加えること、及び記入しない項目の省略等、様式の加工・変更はできません。
- ④ 本会所定の様式のページ数を変更することはできません。

これらが守られていなければ不備の申請書とみなします。また、内容に矛盾のあるもの、記入漏れなどについても不備とみなします。

注：上記のルールに従わなかった場合には、書類不備のため審査にあたり不利益を生じることがあります。

## 「2.(2) 研究成果等」欄に記載すべき項目

以下の①～⑥について、申請者が中心的な役割を果たしたもののみ項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。論文数、学会発表等の回数が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他○報」等と記載してください。

- ① 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載してください。査読中又は投稿中の場合にはその旨分かるように明記してください。著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文と同一の順番とします）、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁－最終頁、発行年をこの順で記入してください。）
- ② 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説（①と同様に記載してください。）
- ③ 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文等と同一の順番で記載すること）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に○印を付すこと。発表予定のものも含めて構いませんが、発表予定である旨明記して記載してください。）
- ④ 国内学会・シンポジウム等における発表（③と同様に記載してください。）
- ⑤ 特許（申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。）
- ⑥ その他（受賞歴等）

## 「2.(2) 研究成果等」欄の記入例

下記はあくまでも一例であり、体裁は申請書に記載されている注記を踏まえた上で、適宜調整してください。

### (1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書

（査読有り）

- 1) 学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2010
- 2) 麴町治郎、学振太郎、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2012
- 3) 半蔵門花子、麴町次郎、学振太郎 (6番目)、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、千代田三郎 (〇名省略)、「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp10-25、2013

他 5 報 ▼

書ききれない場合で省略する場合は、項目別に省略した数を記載してください。

最大20名程度に省略する場合は、

- ① first author, second author, last author、申請者本人、申請書2ページ目に記載の各研究者は省略不可。
- ② 申請者本人氏名には、下線を引くとともに、後ろに何番目の著者にあたるかを記載。
- ③ その他については、どなたを記載するかは定めません。
- ④ 論文と同一の順番で記載。

### (2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

- 1) 学振太郎、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2010

### (3) 国際会議における発表

（口頭発表 査読有り）

- 1) 〇Gakushin T, Hanzoumon H,・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、BB-11, Los Angeles, USA, (June 2010)
- 他 2 件

（「4.研究業績」欄の記入例の続き）

### (4) 国内学会・シンポジウム等における発表

（口頭発表 査読無し）

- 1) 〇学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.200、仙台、2013年9月

パンフレット等に掲載された際に付された番号があれば記載してください。

(5) 特許

(公開中)

- 1) (特許の番号) 号、「(名称)」、麴町治郎、学振太郎、2012年4月

(6) その他(受賞歴等)

- 1) 学振太郎・・・「(賞の名称)」、2011年4月

【発表(印刷)前】▲

既に「発表(印刷)済」のものと、「発表(印刷)前」のものに分けて記載してください。

(1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に採録決定されたもの

(査読有り)

- 1) 麴町治郎、学振太郎、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2015

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表の申し込みが受理されたもの

- 1) ○学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.201、東京、2015年7月

## 申請書の提出方法

以下の期限までに、募集要項で指定しているとおり本会に提出してください。

受付期間：2019年5月13日(月)～17日(金) 17:00【必着】

### <<留意事項>>

- いかなる理由であっても上記の期限より後に提出があった場合は受理しませんので、時間に十分余裕を持って提出してください。
- 直接持参による提出は受け付けません。特定記録郵便等、申請者側にて本会への到着が確認可能な提出方法を使用してください。
- 提出物の配達遅延、紛失等については原則考慮いたしません。また、本会への到着確認問合せには対応いたしません。

### <申請書類提出先>

〒102-0083 東京都千代田区麴町5-3-1 麴町ビジネスセンター  
独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部 海外派遣事業課  
若手研究者交流事業担当